

フロローグ

本冊子のタイトルは、『いのちのバトン』としました。退職に際してのいわゆる「業績集」、という位置づけにはしたくなかったからです。この地球上に生命が誕生して40億年になります。その後、進化の歴史をたどり、約20万年前にホモ・サピエンス（現在のヒト）が現れます。現在私たちの有している限りある命は、最初に地球上に誕生した生命の灯を、ずっと引き継いで、進化しながら現在にいたっています。このことは、誰の命にとっても例外はありません。あたかも『いのちのバトン』を引き継いできて、そしてこれからも、未来に向かって引き継いでいくというイメージです。

「いのち」は漢字の「命」ではなく、「いのち」でないと、本冊子のタイトルとしてはピッタリときません。平仮名の「いのち」は漢字の「命」よりも、医学が対象にしてきた「生命」以上のものを意味しているように感じます。限りある「命」に対して、「いのち」には、有形か無形かという枠組みを超えて、広がりや深まりがあるように思うのです。

「想い」を語る文章のスタイルは、大きく分けると、二つあります。一つは、サイエンスの世界で、厳密さを重視した研究者が専門家を対象にして書く文体です。もう一つは、細部にはあまりこだわらずに、分かりやすく、伝わりやすいように、専門外の方をも視野に入れて書く文体です。私は、医学部卒業後間もなく飛び込んだ、当時はまだ誕生して間のなかった「心身医学」の領域で、診療活動を続けてきました。と同時に、学究生活は「薬理学」という学問領域で、主たる時間を過ごしてきました。その後の「臨床薬理学」領域における私の諸々の活動は、このような二つの領域で得た数々の経験に裏打ちされて存在しています。したがって、科学的な厳密さを追求する文体で原著論文をはじめとする執筆活動を長い間続けてきましたが、「臨床薬理学」や「臨床試験」の領域では、厳密な記述に徹することよりも、基本的な考え方や追求している方向性を一般市民や多くの職種の方々に分かりやすい言葉で語ることに務めてきました。そこで、本冊子の第1部と第2部に入れた読み物には、上記の二つの文体が混在しており、そのために読み難いものになっている部分があるかとは思いますが、その点をご容赦をお願いしたいと思います。

本冊子は三部構成になっています。

第1部（読み物：OPINION）と第2部（読み物：RESEARCH）は、私の業績リストの中から、比較的読みやすい読み物として、できるだけ幅広い領域をカバーできるように、何篇かを選んでみました。第1部は、大分医科大学医学部（現大分大学医学部）臨床薬理学に教授として赴任して以降のものが主体になっています。第2部は、若き日を過ごした愛媛大学医学部薬理学の助教授時代に没頭していた研究を中心にした読み物が主体になっています。長年にわたって汗水を流してきたものの一端にしかすぎませんが、皆様に、少しでもお伝えすることができるものがあればありがたいと思っています。

第3部は、業績リストです。

大学卒業後（正確には、医師実地修練（インターン）修了後）から現在までの期間を、次のような三つの時期に分けて整理しました。

A：大分医科大学に赴任するまでの期間（1966年4月～1989年10月）

大分医科大学に赴任するまでの業績リストについては、改めて整理するのではなく、大分医科大学臨床薬理学教授選考の際に提出した書類にまとめてありますので、その際に決められた様式にしたがって記載した資料を原形のまま使用しました。

B：大分医科大学および大分大学医学部臨床薬理学講座・臨床薬理センター（併任）に教授として勤務した期間（大分大学医学部附属病院長の期間を含む）（1989年11月～2006年3月）

大分医科大学に臨床薬理学の教授として赴任した1989年（平成元年）以降、臨床薬理学講座と臨床薬理センターに勤務した16年半の期間（医学部附属病院長の期間を含む）の業績についてまとめました。

C：大分大学医学部寄附講座の期間（2006年4月～2016年3月）

大分大学医学部寄附講座（創薬育薬医学講座5年間と創薬育薬医療コミュニケーション講座5年間）に教授として勤務した最近十年間の業績をリストアップしました。

業績リストの作成に当たっては、長年アカデミアの中で学究生活を送ってきて身につけている習慣から、[原著論文]を最重視しました。ついで、[総説][著書]、学会での[特別講演・教育講演・シンポジウム]だけを、原則として選びました（特に重要と思われるものについては、一部、例外的に取り上げておりますが～）。しかし、このような基準に基づいて業績をまとめる作業をしているうちに、もう少し視野を広げてみると、ここで取り上げていない活動の中にも、社会的に有意義なものがあるのかもしれないと思いなおして、最後の方で、このような考えから拾い上げてみた活動の一部を、D～Iとして、補足的にリストアップしてみました。

私は正式にはすでに10年前に大分大学の定年を迎えており、大分大学医学部附属病院の病院長退職記念行事として、多くの方々に、身に余る祝賀の会を設けていただきました。心より感謝しています。その際の記録は、昨年（2015年）春に完成しました。全体を通したタイトルを『夢は夢ならず！ Dreams come true. 旅はまだ終わらない！』として、『退職記念講演会』『退職記念祝賀会』『仲間たちとのトークコンサート』の三部構成になっています。しかし、正式退職後に、縁あって、大分大学としては初の寄附講座が開設されることになり、5年間の寄附講座「創薬育薬医学講座」を担当し、引き続いてさらに5年間の寄附講座「創薬育薬医療コミュニケーション講座」を担当させていただくことになりました。したがって、退職直後に名誉教授にご推挙いただいたから、さらにプラス10年間の大学での学究生活を過ごさせていただいたことになります。

本冊子をまとめるにあたって、過ぎ去った思い出を今一度振り返るよい機会になりました。研究生生活では「好奇心」が、臨床薬理学領域の教育・研究・社会的諸活動では「使命感」が大きなモチベーションになっていたように思います。研究生生活では、新しい所見を発見する喜び、その所見の生ずるメカニズムが明らかになったときの心の底から湧きあがってくるような喜びは、何物にも代えがたいものでした。しかし、新しく見つかった所見といえども、時間の経過とともに新鮮味が薄れてきます。私ども一人ひとりの努力の結晶は、川の流れが大河となり、やがて大海に流れ込んでいく

ように、「大河の一滴」にしか過ぎないのかもしれませんが。しかし同時に、このような一滴が集まってはじめて、大河や大海が生まれることにも思いを馳せております。

最後になりましたが、いままでいろいろな面でご協力いただいた多くの方々、仲間の皆様に心よりのお礼を申し上げます。本冊子を通して『いのちのバトン』を受け取っていただきたいと願っています。どうもありがとうございました。

2016年春

大分大学名誉教授

中野 重行